



The United Nations  
University

# ゼロエミッションシンポジウム2003

「ゼロエミッション社会を目指した新しい行動モデル」

—集中と分散—

日時 2003年10月20日(月)～10月21日(火)

10:00～19:30 10:00～17:30

場所 UNハウス3階 ウ・タント国際会議場

東京都渋谷区神宮前5丁目53-70

主催：国際連合大学、国連大学ゼロエミッションフォーラム、日本学術振興会第168委員会

後援：外務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省、農林水産省、環境事業団、

日本青年会議所、日本能率協会、日本経済新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、  
(申請中)

対象：企業経営者、環境部門担当役員、経営企画・設計・生産部門、地方自治体、環境NGO、NPO  
研究機関、教育機関などの方々

規模：両日とも300名

## 開催趣旨

国連は、世界的な規模で進行する環境問題や資源の枯渇、南北間の経済格差などを総合的に検討しこれらの課題にどのように対処するかの方針を打ち出すため、1992年、ブラジルで地球サミットを開催し「アジェンダ21. 持続可能な開発のための人類の行動宣言」を採択しました。

これらの課題にどう対処するか、国連大学ではこの「アジェンダ21」をうけて1994年に「ゼロエミッション」という新しいコンセプトを提唱しました。

環境負荷の少ない、資源循環型社会の実現を目指して、2000年4月に国連大学のフォーラムプロジェクトとして「国連大学ゼロエミッションフォーラム」が設立され、資源利用の最適化と排出の最小化を掲げ、産業界、自治体・地域及び学界が情報を共有化し、発信することによりゼロエミッション理念の一層の普及と実現に取り組んできました。

このような取り組みの結果、地球環境への関心が益々高まり、「ゼロエミッション」の理念は企業、行政、自治体・地域に深く浸透してきました。企業は大量生産から適正生産(オンデマンド生産)へ、ハードの販売からソフトの販売(機能販売)へとシフト、行政はゼロエミッション型エコタウンへの実現に取り組む、自治体は地域環境保全プロジェクトの推進、学界ではゼロエミッション実現のための学術的研究が進み、又NPO、NGOの草の根のゼロエミッション活動等、日本全体、あるいは地域(地方)にゼロエミッション的発想による活動が具体的実践行動として普及してきました。その過程でゼロエミッション社会を目指した新しい経済社会の活動モデルが地域づくり、企業活動などの現場で生まれています。

今回の「ゼロエミッションシンポジウム2003」ではこういったさまざまな動きを紹介し、経験を広く共有することで、理念から実践に向けた第2段階のゼロエミッション活動への第一歩にしたいと考えています。

# ゼロエミッションシンポジウム2003

## 「ゼロエミッション社会を目指した新しい行動モデル」

—集中と分散—

### プログラム

#### 第1日 10月20日(月)

- 10:00 歓迎の辞    ハンス・ファン・ヘンケル 国際連合大学 学長
- 10:10 開会の辞    山路 敬三 国際連合大学ゼロエミッションフォーラム 会長
- 10:20 基調講演 「ゼロエミッション社会を目指した新しい展開」  
鈴木 基之 国際連合大学特別学術顧問、放送大学教授
- 11:10 招待講演 「ビジネスモデルから見たバイオマス日本」  
藤村 宏幸 株式会社荏原製作所 代表取締役会長

12:00-13:00 昼食—休憩

#### (セッションⅠ:ゼロエミッションと新しい行動モデルの事例報告Ⅰ)

- 13:00 「霞ヶ浦の自然再生事業—市民型公共事業」  
飯島 博 NPO法人 アサザ基金 代表理事
- 13:40 「メダカやトキが住める国づくり」  
中村 陽子 NPO法人 メダカのがっこう 理事長
- 14:20 「埼玉ゼロエミッション推進事業」  
山田 正晴 埼玉県環境防災部資源循環推進課 副課長

15:00-15:20 休憩

#### (セッションⅡ:ゼロエミッションと新しい行動モデルの事例報告Ⅱ)

- 15:20 「菜の花からバイオディーゼル燃料の実現」  
西村 登 社団法人 静岡トラック協会 環境対策委員長
- 16:00 「ゼロエミッション手法で100年住宅に挑む—地産地消型の経営モデル」  
山口 昭 株式会社 木の城たいせつ 代表取締役社長
- 16:40 「環境センスの共有とグリーン雇用の促進」  
安井 悦子 株式会社グレイス 代表取締役社長
- 17:20 「ゼロエミッションに向けてのネットワーキング」  
福田 利夫 日本テトラパック株式会社 コミュニケーション課マネージャー  
黒崎 暁 信栄製紙株式会社 副社長

18:00~19:30 レセプション

# ゼロエミッションシンポジウム2003

第2日 10月21日(火)

10:00 基調講演「ゼロエミッション社会を支える新しい経済モデルの展開」

三橋 規宏 千葉商科大学 政策情報学部 教授

11:00 招待講演「21世紀の地球を造る環境ビジネスの醍醐味」

京塚 光司 株式会社イー・エス・アイ 代表取締役社長

12:00-13:30 昼食－休憩

## (セッションⅢ:オンデマンド生産と機能販売)

13:30 「あかり安心サービス 売らない仕組みの衝撃」

宮木 正俊 松下電器産業株式会社 電材営業本部

カスタマークリエイトセンター

環境・エネルギーソリューション グループ 副参事

14:10 「株式会社リコーが目指す環境経営－循環型社会の実現に向けて製品系リサイクルの取り組みについて」

小島 賢次 株式会社リコー 画像システム事業本部 リサイクル事業部  
事業部長

14:50 「カタログ販売とゼロエミッション」

竹本 徳子 株式会社カタログハウス 取締役 エコサービス室長

15:30-15:50 休憩

## (パネルディスカッション:ゼロエミッション社会を目指した新しい行動モデル)

15:50-17:10 コーディネーター

三橋 規宏 千葉商科大学政策情報学部 教授

パネリスト

宮木 正俊 松下電器産業株式会社 電材営業本部 副参事

小島 賢次 株式会社 リコーリサイクル事業部 事業部長

京塚 光司 株式会社イー・エス・アイ 代表取締役社長

竹本 徳子 株式会社カタログハウス 取締役 エコサービス室長

## (シンポジウム2003のまとめ)

17:10 閉会の辞(まとめ)

三橋 規宏 千葉商科大学政策情報学部 教授

17:30 終了

(都合により、プログラム内容を変更する場合がございます。予めご了承ください。)

# 参加申込書

## 参加申込み規定

■参加定員:300名

■参加費(資料代等として下記金額をご請求します)

国連大学ゼロエミッションフォーラム及び日本学術振興会第168委員会会員組織からの参加費は無料です。  
貴組織の窓口担当者に確認ください。

区分	会議参加費(10/20-10/21、2日間)	レセプション参加費(10/20)
民間企業・行政機関・各種法人等	20,000円/1人	3,000円/1人
大学・高専・国公立研究機関等	10,000円/1人	3,000円/1人

## ■参加申込み方法

- ①申込書に必要事項をご記入の上、ファックスまたは郵送でお送り下さい。  
定員になり次第、締め切りますので、開催間際のお申込みは、ご参加いただけない場合もあります。
- ②申込書受領後、1週間ほどで参加証及び非会員の方には請求書(葉書)を発送いたします。
- ③参加料は、開催前日までに請求書の口座にお振り込み下さい。
- ④万一、キャンセルされる場合は、必ずFAXでご連絡下さい。  
なお、開催前日以降のキャンセルはご容赦下さい。

## ■問合わせ先

[事務局]国際連合大学ゼロエミッションフォーラム担当 京(ミヤコ)  
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70  
Tel. 03(3499)2811(代), Fax. 03(3499)2878  
E-mail: miyako@hq.unu.edu

## ■ご注意

講演の録音・撮影はご遠慮下さい。  
テキストは受け付けでお渡します。

## 「ゼロエミッションシンポジウム2003」(10/20-10/21)

### 参加申込書

**FAX: 03-3499-2878**

ご参加予定日(□にチェックしてください。)

シンポジウム□(10/20) □(10/21) レセプション□(10/20)

参加者氏名:	<input type="checkbox"/> 会員	<input type="checkbox"/> 非会員
組織名(会社名、学校名など):	<input type="checkbox"/> 会員	<input type="checkbox"/> 非会員
部署・役職		
連絡先(〒 )		
TEL:	FAX:	
E-Mail:		

(2名以上のご参加の場合は、申込書をコピーしてご使用下さい)